

2022年度 トコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023/9/30

団体名	一般社団法人J-CAPTA	活動タイトル	子どもまんなかCAP（子どもへの暴力防止）普及プロジェクト	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■活動風景	
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	当団体のビジョンは子どもへの暴力のない社会の実現である。すべての子どもたちが、安心して、自分を大切な存在と感じ、権利の主体として行動を選択して生きることのできる地域、子どもの人権を尊重し子どもの持っている力を発揮できるように支え合える地域をめざしている。		<div data-bbox="1668 287 2094 614" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1512 375 1646 558">子どもへの暴力防止フォーラム in前橋 講師のみなさん & J-CAPTAスタッフ</p>	
●団体の社会的役割(ミッション)	当団体は東日本15道県を管轄するCAPトレーニングセンターとして2009年に発足した。CAP活動の普及を通して、子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会の実現を目指している。その目標実現のために、プログラム実践者を養成育成し、地域でプログラム提供活動を行っているCAP実践団体を支援し、また子どもの人権尊重とエンパワメントの広報啓発アクション活動を行う。			
●団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい人的資源：・社会責任を自覚している正会員（CAP実践グループ）・ロールモデルとしてのトレーナー・多様でビジョンがぶれないディレクター・アクティブな理事会メンバー・機動力のあるボランティア ●望ましい物的資源：・情報管理、ファイル共有や会議ができる安全なグループウェアのシステム ●望ましい活動資金：・トレーニング事業と人材育成は自主財源で、広報啓発および連携促進等のアクション事業は、助成金や寄付金を活用する ●望ましい情報：・守秘事項順守を含む運営マニュアル、個人情報の管理、団体自己評価の方法、人材育成の仕組み、スタッフやボランティアに必要な知識と行動指針、災害時の危機管理、感染対策ガイドライン、CAP効果データ共有 			
■活動報告			■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)	
<p>子どもへの暴力防止CAPプログラムの普及を目指して、以下の4事業を行った。</p> <p>【事業1】プログラム実践者養成アウトリーチ事業…グループ支援緊急度データにより群馬県で普及プログラム（CAPおとなワークショップ&子どもへの暴力防止フォーラム）を実施しCAPへの賛同者を増やし、県内で実践者養成講座を開催した。</p> <p>【事業2】お試しCAP教職員ワークショップ&研修事業…地域でのCAPの普及と人材育成を目指して協働するCAPグループを募集し、開催のためのタスク基準を設定して実施した。</p> <p>【事業3】子どもまんなか円卓会議スタート継続事業…グループ支援診断チェックにより該当したCAPグループの地域である北海道札幌市で「子どもまんなか円卓会議（地域版）」のスタートを支援した。</p> <p>【事業4】J-CAPTA専門部会「学生&ユース部会」を発足させ、学生ユース世代の事業参画を推進した。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ●事業1は群馬県警察の協力を得て広報と運営を行った。CAPおとなワークショップ2回（前橋市・高崎市）・子どもへの暴力防止フォーラム1回（前橋市）は参加者計405人、9割以上が「とてもよかった」の評価。その後の実践者養成講座にもつながり、県内に有資格者30人が誕生した。いずれも目標の10倍以上。さらに県内3カ所（高崎市、前橋市、東毛地区）からの追加ワークショップ依頼があった。 ●事業2は北海道ブロック（旭川市）と北関東ブロック（浦安市）の2カ所（全4ブロック）で開催した。エントリーグループが開催地の教育委員会の共催や後援をとったことにより、市内全学校へ周知された。教職員参加者計53人は目標の2倍以上。スペシャリスト参加者は全登録グループの27%（8グループ）全登録CAPスペシャリストの7%（33人）。トレーナーのスキルアップにもなり、グループへの講師派遣につながった。 ●事業3ではグループ主催1回目開催（参加者34人）を支援、その後も自主財源で継続し全4回を実施した。新規参加者30人16機関15職種。 事業4の学生ユース部会メンバーは3人⇒8人に増、事業1のユース学生の参加者は13%（20代5%30代8%）、運営側トレーナースタッフのユースの割合は36%。 	
■事業を通じて得られたノウハウ			■望ましい社会状況を達成するための課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・CAPスペシャリスト（プログラム有資格者）向け「教職員ワークショップ研修」プログラムの開発 ・新グループ発足までのJ-CAPTA&準備会共同ワークショップ実施の仕組み ・「CAPスペシャリストできること&半人前一人前チェック」フォーム https://forms.gle/1HKFHMEJ2Z7mmZMp7 ・ユース学生部会への入会フォームと情報配信ツールの作成 			<ul style="list-style-type: none"> ●すべての子どもたちに暴力予防教育（CAP）プログラムを届けるために、社会責任を担うべく成長し続けるCAP実践グループを増やす。そのためにグループ総合力の向上とプログラム実践者の養成育成を支える。 ●民間発の連携の仕組みを「子どもまんなか円卓会議」等をつかって推進していく。当団体の強みである多様性（異なる専門分野をもつ職種の方々との連携を活かすため？）を活かし全国的なネットワークとするために専門部会を機能させる。（プログラム実践者養成研修参加者の職種や活動は多様で、保育士や教職員、学童指導員、大学生や大学教員、医療関係者、行政・児童福祉施設・児童相談所・障害児者施設・母子支援施設・高齢者施設等の職員、保護者、議員、出版関係、新聞記者、警察官、弁護士、自営業、NPOスタッフなどで、うち実践グループへの所属率は32%。未所属者の専門部会への所属を促す） 子ども共同参画社会を目指して、若い世代の意見を団体運営に反映させる。 	
			■活動成果のアピールポイント（自由記入）	
			この1年間の活動を通じて	ユース世代と共に「CAP準備会」を群馬県で発足 を達成しました。
			■受益者の具体的な変化（自由記入）	
			群馬県に30人誕生したCAPスペシャリスト（有資格者）の有志が、養成講座期間中に、終了後に向けての戦略会議をもち、世話役2人が立候補し、「CAPぐんま準備会」を発足しました。正式発足に向けて、J-CAPTAと協働でワークショップを実施しながら、グループ運営とスキルアップを進めています。	

